

熊本地震・緊急報告会

2016年5月2日

和田 章

日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員長

防災学術連携体代表幹事

東京工業大学名誉教授

熊本県・大分県の皆様へ

長く大きな地震のなかった熊本に、4月14日（木曜日）の夜9時過ぎの家族団欒の時間に襲った前震、そして15日（金曜日）の深夜に皆様が寝静まり日が変わった16日未明の1時半に同じ地域を襲った本震、その前後に続く余震で、熊本から大分にお住いの人々は大変な思いをされていると思います。崩落した家や大きな崖崩れにあって亡くなられた方々、怪我をされた方々、これらの方々のご家族、ご友人、そして住む家を失った人々、入院していた病院から転院せざるを得なかった人々、次の地震への恐怖、壊れるかもしれない家への恐怖により避難されている人々、すべての方々に心を寄せて、このような大きな災害のない日本、世界を作らねばならず、この分野の研究者の一人として努力が足りなかったことに心を痛めております。

阪神地震、東日本大震災などでも同じなのですが、災害発生後に懸命に救助・救命に当たった多くの方々、緊急医療に取り組みされた方々、生活物資などを運び込まれた方々、鉄道や道路の復旧に取り組みされた方々、壊れかけた住宅や建築の応急危険度判定を行った方々、多くの方々のご支援によってこの19日間の救援と復旧が進んでいるのだと思います。

無数の余震の中で大きな地震が2回起きましたが、今後これ以上大きな地震が起きないと誰も断言できません。人々の暮らしを守るべき建築物について応急危険度判定が行われましたが、1万3千棟近い建築物に「危険」の判定が行われました。避難所として使われるべき体育館が被災していることも大きな問題です。同様に、道路や鉄道、水、電気、ガスなどにも大きな被害が起きたことも復旧を遅らせています。この大変な中で多くの方々が、熊本や大分への救援に力を入れていることに、感謝せねばなりません。そして、九州新幹線と九州自動車道が開通したことはありがたいことです。

緊急報告会の開催

日本学術会議は2014年2月28日の幹事会において「緊急事態における日本学術会議の活動に関する指針」^{*1}を決定し、＜大規模な災害等、社会に重大な影響を及ぼす突発的事態が生じ、日本学術会議として科学的見地から見解の表出をはじめとする迅速な対応が求められる状況（以下「緊急事態」という。）に際して日本学術会議が行うべき活動の指針＞を定めています。この指針に基づき2015年7月24日に日本学術会議の課題別委員会として「防災減災・災害復興に関する学術連携委員会」^{*2}が設置され、次の事項について検討するとされています。

1. 「緊急事態における日本学術会議の活動に関する指針」に基づく、災害研究学術団体等との緊急事態における連携に関する事項
2. 「緊急事態における日本学術会議の活動に関する指針」に基づく、災害研究学術団体等との平常時からの連携に関する事項
3. 平常時、緊急事態時における、日本学術会議及び災害研究学術団体等と、政府関係機関との協力・連携の在り方に関する事項

日本学術会議では、上記の指針に基づき審議が行われ、熊本地震を「緊急事態に準じるもの」として、緊急報告会を開催し、政府、関係機関との連絡を密にするよう努めることとされました。

この委員会と連携して活動している「防災学術連携体」は熊本地震の発生後、緊密な連携をとり、すぐにホームページを充実し、4月18日（月曜日）には防災学術連携体の主担当学会の土木学会において、緊急記者会見を共催しました。活断層に関する質問から、災害後の医療、復旧から復興に関わる質問まで、文明の進んだ日本における地震災害は関係する分野の範囲が広く、一人の専門家が答えられるほど簡単ではありません。関係する専門家がそれぞれ答えるべきですし、その結果として社会の混乱を防げると考えています。

このたびの緊急報告会は上記の緊急記者会見に続いて行うものであり、日本学術会議の講堂において、17の学会が参加して行われます。50の学会の皆さまも含め、この防災学術連携体の活動にご協力してくださっている学会のすべての皆さまに心よりお礼申し上げます。

謝 辞

このたびの緊急報告会は、日本学術会議 大西 隆会長をはじめ、日本学術会議の幹事会、防災減災・災害復興に関する学術連携委員会などの委員、事務局の方々のご指示とご支援、及び防災学術連携体の幹事の先生方、特に主担当学会の土木学会 廣瀬典昭会長（防災学術連携体代表幹事）、塚田幸広専務理事（防災学術連携体幹事・事務局長）、副担当学会の日本建築学会 真木康守専務理事（防災学術連携体幹事）などに支えられて実現できたものです。ここに記して感謝の意を表します。特に防災減災・災害復興に関する学術連携委員会 米田雅子幹事（防災学術連携体幹事・事務局長）には、緊急記者会見と緊急報告会の開催を急遽提案して戴いただけでなく、具体的かつ確実に進めて戴いていることに、心よりお礼申し上げます。

最後になりますが、防災学術連携体の主担当学会の土木学会の勝濱良博様、菅原健介様、石郷岡 猛様はじめ皆様のご支援、及び防災学術連携体の事務局を担って下さっている小野口弘美様、麓絵理子様、中川寛子様のご協力に心よりお礼申し上げます。

—参考資料は日本学術会議または防災学術連携体のホームページを参照ください—

- *1 緊急事態における日本学術会議の活動に関する指針
- *2 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会設置要綱